

てんが新聞

08.12. No.139
発行 市岡日出夫
発行所 市岡日出夫
0883-88-5292

祖谷の原風景再生へー

茅刈りスタート

田舎といえは、段々
畑や茅葺きの家が
点在してこれに数十年
前の風景。

様々な理由から、今ど
は、文化財や資料館な
どで見られるだけとは
なりました。

しかし、使われこいくの
は、単に茅葺きの屋根
だけでなく、茅
葺き屋根の技術や生
活の知恵、そこそよれ
を支えていた地域の
結びに代表されるネ
ットワークが壊れられ
てしまっているのだと
感じます。すべては、経済とい
う名のもとに……

祖谷ごと茅葺き民
家は、数軒あるのみ。
くか、ようやく祖谷の原風景再生へ向け
小一歩第一歩を踏みだしました。
重伝建に指定され、段々畑の石積をほ
めとして注目されつつある落合地区の長岡家
が茅葺き屋根に再生が決定し、落合地



区の皆様が中心となり、結成しま
あるをはじめ、東祖谷の青年の参
加を得て、茅刈りがスタートしま
した。
十月は、三回実行し、60名以上の
参加。はじめの若者には、かつては
茅刈りをはじめ、屋根のかきかえ
の経験があるベテランの人が自
分たちの出番が来たとき教えるや
う、自慢するやらうにきかか
一日の労働です。
共同で作業することには、地域
再生も大きな目標の一つです。

更に、地域再生事業として、茅葺きの技
術修得にむけて、大枝地区の武家屋敷と
釣ヶ地区のアレックスカーサの民家「ちいおり
の一部を修復することを通じて技術を学
ぶ体験プログラムが実行され、部分的ではあ
りますが、茅の使い方を教えるようになりました。

茅葺き屋根葺き替えも実施

今回の葺き替え技術体験には
熊本県に拠点を置き、茅葺き言
根の職人として、地域の活動を支
援している小川さんに講師とし
て来て頂きました。
三十才代という若さで、すでに多
くの茅葺きを手がけてこられる小川
さんは、茅葺きだけでなく、ヒモや
縄の結びなどを通じて、仕事に
する姿勢など多くの事を学ぶこ
が出来ました。

細々と続けていた茅刈りと、茅葺
き屋根再生にむけた夢が現実
なりつつあり、嬉しいかぎりです。
茅刈りの組織「結び」いまあるしも
結成され、今後、継続的に、祖谷
で暮らしている私達自身が自覚
して、取り組みをしていけば、茅
刈り祖谷の生活が見えて来ます。



増え続ける鹿。日常的に出会う！